

新年を迎えて

高岡教区教務所長 西岡孝了
平成二十九年が明けました。皆さまには、阿弥陀さまの「わたし」への思いを聞くなかにも、過ぎし日のさまざまな思いを抱えたままに、新年をお迎えのことと存じます。皆さまには、平素から教区の宗務推進に一方ならぬご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて、厚く御礼を申しあげます。

宗門では、昨年十月から第二十五代専如ご門主の伝灯奉告法要がお勤まりになっております。この三月から五月には後期の日程が組まれておりますが、宗門の一員として何を受け継ぎ、どのようにしてそれを次に引き渡していくのか、本年は改めてそのことを考え、確認し、具体的に行動に移して行く年にならうと思っております。

折りしも、いま、本山・本願寺では宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講が修行されておりますが、この報恩講を創設された第三代宗主覚如上人は、現代風に言えば、宗門の目的と行動の本源について『報恩講私記』に「他力真宗の興行はすなはち今師（親鸞聖人）の知識より起り、専修正行の繁昌はまた遺弟の念力より成ず。流れを酌んで本源を尋ぬるに、ひとへにこれ祖師（親鸞聖人）の徳なり。すべからく仏号を称して師恩を報ずべし」

（『註釈版聖典』一〇六八頁）
とお示しいただいております。いま、世の中の様々な価値観が混在する中で、世の中の動きに柔軟に対応しながらも、それに迎合することなく、このお言葉の意

味を酌んで具体的な行動に移していきたいものです。

さて、小職も三度目の新年のご挨拶を申しあげることとなりましたが、着任以来、私自身の仕事は、宗派当局と教区とのコミュニケーションを図りながら「お一人お一人が宗門という組織の一員である」との意思表示をしていただけるような環境づくりである、と位置付けてまいりました。言い換えますと、宗務の推進の主役、即ち何をなすべきか決定し実行するのは皆さまお一人お一人であって、教区でいえば、お一人お一人が地方自治の主役であるというお気持ちを持たないようにならう、ということでした。

このことに関し、現在、小職の諮問委員会であります「教区宗務調査研究委員会」におきまして、「教区会計の健全化」の視点から、教区宗務にかかる財源確保の問題や直属寺院や教学財団の位置付け等について論点整理をさせていただいております。道半ばではありますが、いずれ、教区全体でご協議いただければと取り組んでおります。その他、様々な問題が在り、いまだ十分な成果を自覚できませんが、少しずつでも解決の糸口を見つけていただければ、教務所職員の皆さまとともに精進してまいりたいと思っております。どうぞ、更なるご教導とご鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、高岡教区における専門興隆と専修正行の繁昌、ご法体ご自愛いただきますことを切に念じまして年頭のご挨拶とさせていただきます。
合掌

◇高岡教区第十八次支援班が福島で餅つき

十二月二十五〜二十七日にかけて、教区災害救援活動専門委員会（織田隆夫委員長）の企画による第十八次支援班が全村避難の飯館村の仮設住宅を訪れ、餅つきとうどんの炊き出しを行った。

これは、東日本大震災発災の年から毎年、行われているもので、六回目となった今回は、初参加の三名を含む中学生から七十代の十四名が参加、飯館村の方々と共に餅をつき、交流を深めた。

初日は国見上野台仮設住宅、二日目は乳幼児のいる家庭が多い吉倉宿舎、そして最終日には福島市内の工業団地の一面にある松川第二仮設住宅の3ヶ所での催しとなった。今回、三回目となる上野台仮設では、顔見知りのメンバーに直接、声を掛けられる入居者の方が出てこられるなど、和やかな雰囲気の中、交流が持たれた。しかし、「ここも五年が経つ中で入居者は十数名まで減っている。また、今春の『帰村宣言』（避難解除）以降は閉鎖される予定であり、ほとんどの入居者が今後の生活の目処が立っていない」という報告を聞き、一同はショックを隠せなかった。また、翌日の吉倉宿舎では、毎年の教区ホームステイに参加している子どもたちが支援班メンバーと再会を喜び合った。吉倉宿舎自治会長の嶋原良友さんは、



「既に、家庭・家族、地域の繋がりも大きく変わってきている。しかし、吉倉の家族にとって、夏のホームステイと

年末の餅つきは特別なもの。今後高岡教区の皆さんとの繋がりを大事にしていきたい」と感謝の言葉を述べられた。高年齢な方も、松川仮設でも、

「今、ここに残っている人達は、世間から取り残され、見捨てられたという思いが強くなっている。『帰村宣言』をどう受け止めるか…、みんな不安な思いで日々を過ごしている」との声が多く聞かれるなか、織田委員長は「今後は飯館村の寺院を会場にするなど、支援班の活動のあり方も考えていかねばならない」と応えていた。

今回、支援班は相馬組組長の現状報告をお聞きしたり、相馬組善仁寺の杉岡誠住職の協力を頂き飯館村の青年グループとも懇親の場を持ち、現地の状況をお聞きしながら、今後の支援と交流のあり方について意見を交わした。

教区災害救援活動専門委員会では、今回、現地で伺ったご意見などを基に、新年度に新たな支援・交流の活動を具体化したいとしている。



◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

連研受講者に期待すること（連研のための研究会での意見発表）

今回、「連研のための研究会」（昨年十二月二十日開催）にて、意見発表をする機会をいただきました。連研受講者に期待することとは何かという問いは、連研受講者と一緒に作りたい未来のイメージを持つているのが問われていると感じました。「自他共に心豊かに生きる社会の実現」を連研受講者とのように実現していくのかを考えてみましょう。

《教団と社会の現状について》

とりまく環境の変化で寺院運営が困難になっていることは従来から指摘されていることですが、寺院の努力や工夫ではなんともしがたい要因に人口の減少があげられます。川上組近郊においてここ数年は毎年約1%の人口が減少しています。一〇〇軒ほどの門徒をもつ寺においては毎年一軒ずつ門徒が減っている現状です。営農方式の農業が進み土地に縛られることがなくなり、それは同居世帯の減少を促す要因にもなっています。世代ごとの別居は介護施設での老後を過ごす人を増やし、空き家の増加につながっています。従来は町であったところも統計的には限界集落であると指摘されています。このような人口減少の波は戻る見込みはなく、寺院の数も減っていくことになるでしょう。それぞれの門徒が減り、寺院を存続するかどうするか検討しなければならぬような状況になったときには、門徒にとって既に寺院がかなりの負担になっている状況です。負担としてのイメージが大きくなりすぎると寺離れとともに、念仏離れも進行してしまうのではないかと思えます。寺院がこの教団の大きな障害になってしまう可能性もあるのかもしれない。

《寺院という枠にとらわれない活動》

少し発想を変えてみますと、寺院存続の危機であることは間違いないですが、そのことが必ずしも信仰の危機とは言えないはず。もしも寺院という枠を超えて、浄土真宗のみ教えに会い、日常の悩みや課題を語り合えるネットワークがあれば、次々に寺院が消滅する状況においても、しっかりと念仏を受け継ぐ人は残っていくのではないかと考えます。そのようなネットワークの構築には、寺院同士のチームワークがますます重要になってくると考えられます。しかしながら、僧侶の課題の中心は、困難な状況にあってもいかにして寺院を維持していくかということであり、「寺院を基盤とした教団」の発想からはなかなか離れられません。

《連研受講者に期待すること》

これまで行ってきた寺院・僧侶を中心とした儀礼や法話という行事をできるだけ維持しつつも、寺院を中心とした教団から、課題・運動を中心とした一人ひとりが主体となる活動へのシフトが必要ではないでしょうか。この維持と変化の両方を同時に進行していかなければなりません。連研受講者には積極的に所属寺にこだわらない活動をしてほしいと思います。

話し合い法座が成立するためには、意見を述べたときに、耳を傾けてくれるという安心感や、対立することがあっても疎外されないという信頼感が重要です。連研活動そのものが、小さな「自他共に心豊かに生きる社会の実現」の繰り返しであるとも言えます。連研スタイルの活動が、推進員養成としてだけではなく法座活動のスタンダードになるためには、話し合い法座の経験者がたよりになります。自由に発言できる機会を広げ、僧侶や寺院が持つ課題をどんどん指摘してくださることを期待しています。

◇これからの日程（1/14～2/19）◇

1月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 ※14, 15, 16日は御正忌報恩講のため 教務所事務は休業いたします。	
18	財務委員会	
19		仏婦執行部会 いろは塾
20	教区新年会 総代会組担当者会議 100年史シンポジウム	
24		キッズサンガ委員会
25	連区意見交換会（福井） 青年布教使研修会	長寿苑ビハーラ活動 コーラス（夜）
26		仏婦新年会
27	ヤスクニ小委員会	
28		まことの保育研修会
2月		
1		雨晴苑ビハーラ活動
2		ブロック大学講座打合せ （～3東海）
3		水波組礼拝堂使用
4	連研履修者研修会	
14	常例法座	同朋の会
15		コーラス（昼）
19		仏壮ボーリング大会

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（175袋）8,300円

・大箱（36袋）2,300円

・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内
（寺族青年会担当）

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎1/21（土）：若林 唯人氏

（本願寺派布教使・大阪府光照寺衆徒）

「時代とともに変わるお御法の伝え方」

□1/22（日）：未 定

（富山教区）

◎1/28（土）：三瓶 悦子氏

（本願寺派布教使・島根県徳善寺衆徒）

「九条武子の生き様に学ぶ」

◎2/4（土）：三瓶 悦子氏

（本願寺派布教使・島根県徳善寺衆徒）

「未 定」

◎2/11（土）：佐藤 知水氏

（本願寺派布教使・岡山県光榮寺衆徒）

「未 定」

□2/12（日）：未 定

（高岡教区）

◎2/18（土）：佐藤 知水氏

（本願寺派布教使・岡山県光榮寺衆徒）

「未 定」

【西本願寺高岡会館2月の常例法座】

ご講師：山 岸 智 史 氏

（高岡教区五位組珉照寺）

ご講題：『三途の黒闇ひらくなり』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。